

# ライバルは自分自身

## 郷土の著名人の生き方に学ぶ展開

- (1) 主題名 個性の伸長 [ 1 - ( 5 ) ] 関連項目 [ 1 - ( 2 ) ]  
 (2) ねらい 自分のよさを自覚し、高めることにより、充実した生き方を追求する態度を養う。  
 (3) 資料名 「ライバルは自分自身」( 出典 : 「全力投球」大野豊著 宝島社 )  
 (4) 授業の展開例

	学 習 活 動	主な発問と生徒の心の動き	留 意 点
導 入	1 大野投手について知る。	大野投手について知っていることはないか。 抑えの場面に出てくるのだが、どんな性格の人だろうか。 ・責任感の強い人 ・気の強い人 資料名を予想する。 ・ライバルはあいつ ・ライバルは友だち	大野投手の写真などを利用し興味を持たせるようにする。 精神的に強いというイメージを持っていることが予想される。 「ライバルは」のみ板書し、続きを予想させる。
展 開	< 資料 配布 > 2 資料 を読み、大野投手について思ったことを発表する。  3 大野投手の気持ちを考える。  < 資料 配布 > 4 資料 を読み、空欄に入る言葉を考える。  5 自分の良い点について考える。	大野投手についてすごいと思ったことや、自分と同じだと思ったことはないか。 ・精神的に弱く、考えすぎるところ ・自分の持ち味は何か考えたところ ・自分を常に成長させようとしている 野次られた時、どんな気持ちでマウンドにいたか。 ・また失敗するのではないか ・恥をかって馬鹿にされるのか 資料の空欄部分に当てはまると思う言葉を入れてみよう。 ・運命 ・自分の力 自分のよいところはどこか考えてみよう。 ・僕は、            なところかな ・私は、            なところだと思う	考えをまとめるためワークシートに記入する。          「バットを怖れるのではなく、 <u>自分のボール</u> を信じる」 「相手の弱点を攻めるのではなく、 <u>自分の長所</u> を発揮する」 「心のノート」を利用し、自分のよさについて考えられるようにする。
終 末	5 教師の説話を聞く。	自分のよさを見つけたら、それが、勉強や生活面のどんな部分に生かすことができるか考えてみよう。	大野投手のように、自分自身のよさに気づき、伸ばしていこうとする意欲を持たせるようにする。 大野投手のビデオ等があれば利用する。

## 「ライバルは自分自身」

大野 豊

資料

出雲信用組合では軟式野球で活躍し、昭和52年にテストで広島に入団。一年目に一軍で初登板。そのときの記録は

登板数 1 投球回数3分の1 安打5 本塁打1 四球2  
三振0 失点5 自責点5 防御率135.00

その後、リリーフとして頭角を現し、59年から先発に転向。63年には防御率1位と沢村賞を受賞。平成3年から再びリリーフに転じ、同年最優秀救援投手になる。平成7年には40歳8ヶ月でセ・リーグ最年長完封勝利を達成。平成9年には42歳で防御率1位のタイトルを獲得。平成10年限りで 現役引退。22年間の生涯防御率は2.90。

平成11年に広島の一軍投手コーチを務めたあと、12年からNHK「サンデースポーツ」の解説者として活躍中。通算148勝100敗138セーブ

「大野さんのライバルは誰ですか？」

現役時代によくそういう質問を受けることがあった。

プロの世界である以上、選手は常に自分が想定したライバルとしのぎを削り、実力を磨いているに違いない。おそらく質問者は、そんなイメージを持っているからこそ、選手にとつてのライバルを聞きたかったのだろう。

確かに私も、「あいつには負けたくない」という強い気持ちを抱いてプレーすることはあった。そう思わせる選手が同じチームにもいたし、他チームにもいた。しかし、彼らが本当に自分のライバルかという点、実際はそうではなかった。

結局は、ライバルは自分自身。

自分自身に確固たる物を身につけられるかどうか。心の中に迷いや弱さが出た時、自分自身に負けることなく、それを断ち切るだけの精神力や信念を持てるかどうか。いかに自分を作っていくかということなのだ。

そうしないと、相手とは戦えない。自分が中途半端な人間のうちは、あいつがどうこうと意識している場合ではない。

しかし、どうしても自分はそっちのけで、周りのこと、余計なことばかり気にしてしまう人が多いのも事実だろう。かくいう私も、そういう意識を持てるようになるまでにはずいぶんと時間がかかっている。

もともと私は、精神的に弱く、常に結果や先のことを考えすぎてしまうタイプだった。それこそ、本当はプロ野球の選手として修羅場をくぐり抜けられるような性格ではなかった。勝てる試合で自滅したことが何度もあった。

（何で俺はこんなに情けないんだ）

いつもマウンド上でそんなことを考えているようなピッチャーだった。

最も自分の弱さが出たのは、江夏さんが日本ハムに移籍した後に抑えを任された昭和56年からの3年間。登板する前から、

「お前は投げるな、江夏だったらよかったのに」

と野次られ、そのたびに、また失敗するんじゃないかと不安に駆られる自分が本当に嫌でたまらなかった。

そんな自分を変えたいと思い始めたのは、皮肉にも、抑えから解放されて先発に復帰した昭和59年になってからだ。当時の私は、同じ左ピッチャーである江夏さんに近づきたいとずっと思ってた。当然目標を持つことは大事なのだが、その時ようやく何かが違うということに気づいたのだ。

江夏さんはあくまでも江夏さんであって、私ではない。同じようなことを目指しているうちは、江夏さんを超えることはできないし、結局は自分の殻さえ破ることができないのではないか……。

（大野はこういうピッチャーだという、自分のスタイルを作らなければいけない）

そこに行き着いた時、では自分の持ち味は何かと自問自答してみた。江夏さんに勝てるものといったら、まっすぐのスピードだ。それなら、そのスピードボールを生かすためには、変化球とコントロールを身につけることも必要に違いない。

そんな意識で取り組むようになってから、自分の力を徐々に出せるようになった。それによって自信も生まれ、ピッチャーとしての成長にもつながってきた。

座右の銘ではないが、いつのころからか、私は自分のサインの横に「不動心」と書くようにしている。不動心、すなわち物事に動じない心。ピッチャーでいえば、マウンドに上がっても自分を見失わずにバッターに立ち向かうということ。そのためには、相手うんぬんよりも自分自身を理解していることが第一だ。

#### 資料

バットを怖れるのではなく、（ ）を信じる。

最悪を予想するのではなく、最善を確信する。

相手の弱点を攻めるのではなく、（ ）を発揮する。

私は、自分の欠点におびえるのではなく、美点を信頼するようになってから、不動心を習得できたように思う。そして、平成3年に再び抑えになった時にはもう、かつてのようなマウンドでの不安は消え去っていた。

（「全力投球 我が選んだ道に悔いはなし」 大野 豊 著 宝島社）

# 活用に生かすための実践報告

「ライバルは自分自身」

## 1 主題の設定

一人一人の人間は姿や形がちがうように、人それぞれには必ずその人固有のよさがある。その個性を生かし伸ばしていくことは、人間の生涯をかけての課題でもある。中学生の時期は自分の姿を自らの基準に照らして考えたり、他人の比較においてとらえ、その至らなさに悩むことも少なくない。中学生のこの時期に、自分のよさを見つめ、さらに伸ばしていこうとする態度を養うことは、大切である。

第1学年の後半、進路学習などをしていく時期に学習することで、効果があると思われる。

## 2 指導過程の工夫

導入では、大野投手の写真などを利用し、興味をもたせた。大野投手＝強い人というイメージをもっているのではないかと思い、救援投手とはどんな性格の人か考えさせた。また、タイトルである「ライバルは」の次を予想させることで、意外性をもたせたかった。

自分自身を見つめる場面で、自分のよさがわからない生徒もいるので、班内でお互いのよさを考えるという展開を入れる方法も考えられる。

また、大野投手に関する映像があれば、利用することで、さらに学習効果が高まると思われる。

## 3 発問の工夫

プロ野球選手という、自分たちから見れば「すごい人」も、自分たちと同じように、気が弱かったり、悪い方へと考えてしまう

ところに共感させるため、「自分との共通点」を考えさせた。

投手であれば、バッターの弱いところへ投げようとするのが予想されるが、自分の長所を発揮することで「不動心」を習得できることを印象づけるため、資料を区切り、資料後半をまとめとして扱った。資料後半をプリントにして配布してもよいが、大きく書いたものを黒板にはることで、資料の提示の方法に変化がつくと思われる。

## 4 生徒の反応（授業後の感想）

地元広島野球の選手であり、野球解説者でもあることからテレビで見る機会も多く、よく顔も知っていて、特に男子が興味をもって授業に取り組んだ。夏休みに著書を読んでいる生徒も多かった。

## 5 実践者からの一言

わかりやすい資料であり、自分を見つめやすい内容であった。しかし、自分のよさがわからない生徒もいるので、今後の教師の声かけや指導が必要であると感じた。

また、「すごい人」というイメージが強く、大野投手が自分の弱さについて述べている部分と自分自身を重ねられない生徒もいた。

授業後も大野投手の写真や、資料後半のことばを教室に掲示することで、学習内容が、印象に残ると思う。

（祇園中学校 澤井美由貴）

## 【出展：引用資料】

「全力投球 我が選んだ道に悔いはなし」

大野 豊著 宝島社